

2023年7月4日

株式会社 Drop

株式会社データ・アプリケーション

Press Release

【7/26 SDGs 推進担当者向け無料セミナー】 社内展開がスムーズに進むマテリアリティ策定とは ～マテリアリティ策定プロセスのポイントと事例を紹介～

法人向けの SDGs 研修・コンサルティングを行う株式会社 Drop(本社：大阪市北区、代表取締役 米田 真介)と株式会社データ・アプリケーション(本社：東京都中央区、代表取締役社長：安原 武志、略称：DAL、スタンダード市場：3848)は、2023年7月26日(水)に無料セミナー「SDGs/サステナ担当者に聞く！社内展開がスムーズに進む“マテリアリティ策定とは”」を共同開催します。

SDGs / サステナ担当者 に聞く！

社内展開 がスムーズ に進む
“マテリアリティ策定”とは

7/26 (水)
12:00～12:50

ONLINE

ファシリテーター
株式会社Drop 齋藤 汐帆

登壇者
株式会社データ・アプリケーション
経営企画管理本部経営企画グループ
グループマネージャー
矢下 秀行

DAL × Drop

今や SDGs は社会トレンド・企業の生存戦略となっており、世界中の企業が SDGs を経営に組み込むべく様々な取り組みを進めています。企業が優先的に取り組む重要課題であるマテリアリティを策定し、SDGs/サステナビリティ推進に目的をもって取り組むことは、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に向けた重要な意味を持ちます。

本セミナーでは、マテリアリティ策定の重要性や、マテリアリティ策定のプロセスで担当者が押さえておくべきポイントを学ぶことができます。また、社内展開がスムーズに進むマテリアリティの策定について株式会社 DAL の事例をもとにご紹介します。

「もっと SDGs/サステナビリティ推進に経営層やメンバーを巻き込みたい」「マテリアリティ策定を自社だけで取り組もうとしているが、なかなか進まない」などとお悩みの推進担当者の方におすすめです。

■セミナーで学べる内容

- ・マテリアリティ策定の重要性
- ・DAL のマテリアリティ策定事例
- ・経営層や推進メンバーを巻き込み合意形成をするコツ
- ・マテリアリティ策定を専門家と行うメリット・デメリット

■このような方におすすめ

- ・経営層や推進メンバーを巻き込んで SDGs/サステナビリティを推進したい
- ・マテリアリティ策定を推進のゴールにせずに取り組みを進めたい
- ・自社でマテリアリティ策定の実施を検討している
- ・マテリアリティ策定の支援先を探している

■期待できる成果

- ・マテリアリティ策定で共感を呼ぶことを意識する重要性が理解できる
- ・経営層や推進メンバーを巻き込むコツを得られる
- ・マテリアリティ策定で専門家を招くことについて検討しやすくなる

■セミナー概要

日時：2023年7月26日（水）12時00分～12時50分（入室11時55分）

場所：オンライン開催（Zoom）

料金：無料

定員：100名

■申込方法

お申し込みは以下2つのサイトから可能です。（会員登録が必要です）

Peatix: <https://sdgs-seminar-230726.peatix.com/view>

こくちーず: <https://www.kokuchpro.com/event/306254add410f395f4076805288865df/>

登壇者紹介



スピーカー：矢下 秀行（やした ひでゆき）

株式会社データ・アプリケーション 経営企画管理本部経営企画グループ グループマネージャ

—



ファシリテーター：齋藤汐帆（さいとう しほ）
株式会社 Drop SX 支援事業部 カスタマーサクセス責任者

以上

【株式会社 Drop について】

株式会社 Drop は、SDGs に取り組んでいく企業の理解と実践をサポートするコンサルティング会社です。SDGs・サステナビリティに関する知識・ノウハウを活用しデジタル・アナログ・データをミックスさせながら、社会課題・経営課題に対してビジネス手法を用いて世の中やクライアント企業の課題定義と解決を目指します。SDGs の情報サイト「SDGs media」を運営しています。

【株式会社データ・アプリケーション（DAL）について】

DAL は、1992 年に UNIX 向けの製品をリリースして以来、EDI（電子データ交換）を中心にデータ連携分野において信頼性の高いパッケージソフトウェア「ACMS(Advanced Communication Management System) シリーズ」を提供してきました。「ACMS シリーズ」は、国内の EDI パッケージ市場でリーダーシップを確立しており、すでに 2600 社 13500 サイトを越える企業のミッションクリティカルなシステムで稼働しています。ビジネス変化に強く、新たなイノベーションを生み出す企業のデータ連携ソリューションを今後も提供してまいります。

【HP】 <https://www.dal.co.jp/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/DataApplications/>

【Twitter】 https://twitter.com/dal_acms

※DAL, ACMS, ACMS Apex, AnyTran, E²X, WebFramer, RACCOON, OCRtran は、株式会社データ・アプリケーションの日本および海外での商標ならびに登録商標です。

※本文中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。